

## 第2回 鶴川東地区新たな学校づくり基本計画検討会 議事要旨

開催日時	2022年3月29日(火) 9:30~11:00	
開催場所	町田市立鶴川第三小学校 体育館棟1階 視聴覚室(ウェブ会議併用)	
出席者 (敬称略)	委員	金澤委員(代理出席氏家氏)、早稻田委員、磯田委員、田中委員、成海委員、吉川委員、大塚委員、廣田委員、○鈴木委員、◎鯨坂委員、井上委員 (◎会長 ○副会長)
	事務局	田中教育総務課長、田村学務課長、押切保健給食課長、林教育センター所長、末原指導主事、菅野施設課担当係長、根本学務課管理担当係長、都筑学務課学籍担当係長 (教育総務課総務係) 岡崎担当係長、京増主任 (委託業者) 株式会社教育施設研究所 高松 株式会社梓設計 鈴木(教)、古田、鈴木(彬)、今井
傍聴者	0名	

### 議事内容(敬称略)

#### 1 第1回基本計画検討会振り返り

教育総務課 (資料1説明)

#### 2 新たな学校の通学路の安全対策及び通学の負担軽減に関する基本情報

学務課 (資料2-1~3説明)

資料2-2~3は個人情報を含むため非公開資料。

#### 3 新たな学校の運用体制について

教育総務課 (資料3説明)

新たな学校の運用体制については、ソフト面(運用面)を変えていくことを想定している。新たな学校においても教員が教育活動の根幹を担うことについては変わらないが、必ずしも教員が担う必要がない部分については、民間の力を導入することで教員が教育活動に専念できる環境をつくり出すとともに、学校施設を地域の活動の拠点として使いやすくしたい。今あるコミュニティスクールの取組に民間の力を加えることで、学校でできることの幅を広げていきたいと考えている。

★2では「新たな学校で目指すこと」を示している。

その1点目は「みんながつどう地域拠点にする」ことである。学校がさらなる学びや地域の面白さを生かす場所になっていくことを目指している。

2点目は「教員が教育活動に専念できる環境にする」ことである。教員でなくてもできる施設開放や建物の維持管理の仕事を教職員から切り離し、これらの仕事に新たに民間等の力を活用することで、教員が教育活動に専念できる環境を実現していきたいと考えている。

★3では運用体制模式図を示している。既存のコミュニティスクールの仕組みに

民間等の活力を加えていくことを考えている。このことで、例えば、今ボランティアコーディネーターが学校の活動を支援するような支援者を集めて探す活動を民間がサポートすることでより幅が広がるようなこと、あるいは地域開放区画の利用を促進するような事業を展開すること、そのような様々なことができるようになることで幅が広がるようなことができればいいなと考えている。

続いて★5、6では「民間等を導入することで実現したい姿」を示している。

★5は「みんながつどう地域拠点にする」ために導入したいことということで、課外活動や授業でできることを広げていくこと、例えば、授業で習ったことを実践する理科や算数の特別講座、まちとも連携した遊びと学び、プールの授業をインストラクターが指導することや、中学校であれば外部指導の幅を広げることで部活動の種目を増やしたり、専門コーチによる指導を実践したりすることが考えられる。

さらに、教育関係やスポーツ関係の事業者などによる放課後における子どもの居場所づくりと併せて、学校で学習塾や習い事ができるようにすることなど、いろいろ可能性があると考えている。

また、地域の人たちが学校に集まるような事業を展開し、学校を利用してもらおう。そして、地域活動に子どもを取り込んだり、子どもの活動の幅を広げたり、地域の人同士のつながりが生まれたいようなことを実現していきたいと考えている。

このようなことに関しては、現在、事業者にも民間活力導入可能性調査を委託しており、そこで実現の可能性を探っている。

★6では、このような取組をしていくことで教員の負担が増えてしまっては元も子もないので、そういうことがないように、民間が学校施設の維持運営に関わる範囲を時間帯によって変えようと考えている。具体的には、授業がある時間とそうではない時間帯でセキュリティラインを変えることで、教育活動を優先しながらも、地域拠点として利用できる幅を広げようと考えている。

#### 4 鶴川東地区の新たな学校の施設整備について

梓設計

(資料4-1説明)

このワークショップの目的は、提示した4案のうちどの案が良いかを選ぶことではなく、この4案をたたき台として、良い学校をつくるために大切なことは何かということをご意見いただくことである。

鈴木委員

(資料4-1のうち、「校地の現状」について説明)

がんばり坂を上り切ったところの左側に現在の正門があるが、給食とか運搬系の車両は全部ここを通過して学校に入る状況になっている。また、この車が通る正門に至るまでの道の右側に、全児童が登下校する通用門がある。そのため、車両と児童が学校に入るために同じ道路を使っている状況になっている。

校地の周辺が全体的に高い擁壁になっていて、そのことを踏まえた施設配置を考える必要がある。

北側擁壁の下にはピオトープがあり、児童が親しみを持っている。また、古くから

の真光寺川の生き物などをここで保存しているという意味もある。

梓設計

(資料4-1残り部分、資料4-2について説明)

皆様に自由なご意見を頂くため、たたき台としてA~Dの4案を提示している。

各案に共通する事項を説明する。150メートルのトラック、50メートル直送路を設けている。また、普通教室を建物の南または東側に配置し、セキュリティ等の観点から、職員室はグラウンドに面して配置している。プールに関しては屋上かつ屋内で計画している。また、門の位置については自由に意見を言ってほしい。

A案について説明する。A案だけ3階建てで計画している。北側と東側にグラウンドを囲むL型案になる。教室は南側に配置して、中庭を介して普通教室を設けている形になる。

B案は施設を北側にコンパクトに配置し、校舎から体育館への移動距離が短くなっている。

C案は西側に細長く建物を配置し、学童を建物と一体ではなく今の第2グラウンドのほうに設けている形になる。

D案は北側と東側にL型に建物を配置し、体育館が北側になっている。また、建物が現在の第2グラウンドのほうに伸びている形で、第2グラウンドからテラスを経由して2階の昇降口にアクセスできる形になる。

何度も申し上げるがこの4案はあくまで参考ですので、各委員の自由なご意見をいただきたい。

委員

紫色の点線で囲まれている「開放エリア」というところは何を表しているのか。

梓設計

学校施設をどこまで地域開放するかで変わってくるが、体育館であるとかプールだけでなく、特別教室と呼ばれる家庭科室とか理科室とか、将来的にそのような教室も地域に開放できるということを想定して、地域開放するエリアとしている。そして、地域開放しないエリアの間にセキュリティラインを設けることで、それより先には入れないようにし、児童の安全を確保する。

委員

物理的に壁を作るような感じになるのか。

教育総務課

例えばシャッター等で区切ることなどが想定される。そのため現時点では、区切るに当たって各部屋の配置を分けておかないといけないので、それぞれのゾーンを分けて記載している。

### [ ワークショップ ]

Bグループ

こちらのグループで出された意見をお話する。

学校を利用する地域住民が車で来た場合、北側に駐車場をつくるとなると、そこから開放エリアへのアクセスを整備する必要がある。また、学童についてもお迎えの関係から駐車場は近くにあるべき。

教室はやはり南向きなどで明るいほうが良く、職員室と児童が使う教室が離れていないほうがいいのか。

プールが屋内プールになるのは良い一方で、あまり上階にあると強度的に不安という意見もあった。

北側斜面が盛土で、土砂災害特別警戒区域に指定されていることから、施設配置の上で考慮したほうがいいのではないかと。また、防災面で言うと、車両の出入口から短い距離で体育館に行けるアクセシビリティが必要なのではないかと。

ピオトープは、地域の人たちも見られるようになってほしい。また、ピオトープが体育館の裏になってしまうと死角になってしまい、心配があるという意見もあった。

グラウンドについては、広く見通しがよく芝生のスペースもしっかり確保してほしい。最後に校内への動線について、平和台側から登校してくる児童が最短距離で敷地に入れる門はあったらいい。あと、現在の第2グラウンドに門を作るのであれば、ここは歩道がすごく狭いので、少し敷地の内側に入るような余裕を持たせた形で児童の出入口の通用門を作ったほうが良い。また、児童の正門から昇降口は可能な限り近いほうがよく、その際にグラウンドは通らせたくないという意見もあった。

#### Aグループ

こちらのグループで出た意見を発表する。

車両の搬入口と児童通用門は分けたほうがいい。そのためには、現在の第2グラウンドの部分に児童出入口を作るのが良い。

例えば子どもに熱があってお迎えに来たりすることを考えて、校舎と駐車場は近くにあったほうが良い。

日当たりはB案、C案がいいのかなと思うが、体育館は冷暖房が完備されたから、日が当たらなくてもいいのではないかと。ただ、建物で遮られ校庭に午前中日光が当たらないのは、水はけの観点から大丈夫なのか。

教室が北側にあるのはあまり良くないので、中庭を挟んだ教室という考え方はしないでほしい。できればみんな日の当たる場所に教室を置きたい。

校庭は広いに越したことがないので、5600㎡だったら6000㎡のほうが良い。

避難所としての機能を考えたときに、体育館の下に職員室があると切り分けができず、いつまでも通常の教育活動に戻れないことが心配。

敷地西側にマンションが建っているのですが、校舎の向きによっては音がマンションに全部行ってしまわないかという心配。

プールがある4階と隣の公園の高さが一緒なので、室内プールでなければ、盗撮の対応をしなければいけない。

学童の場所はやはり児童の通用口から近いところが良い。校舎の中に入るということもあるかもしれないけれども、なるべく入り口から近いところが良い。

## 5 第3回基本計画検討会開催概要

教育総務課 2022年4月27日（水）9：30～鶴川第三小学校で開催予定。

## 6 閉会

会長 （閉会の挨拶）